

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋丸の内一丁目計画	階数	地上16F
建設地	愛知県名古屋市中区丸の内一丁目1613-1他10筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,845 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2024年3月19日
敷地面積	4,821 m ²	作成者	
建築面積	3,318 m ²	確認日	2024年3月19日
延床面積	47,963 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 3.5 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア=3.8</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア=3.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア=4.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.1</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア=4.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア=3.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.9</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>『快適性の向上と環境負荷低減を両立する環境配慮オフィスの実現』 外周部の柱梁を完全に外部化することで、日射負荷を低減するとともに、室内の快適性向上や、事務室空間の無柱化による利便性向上に寄与します。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>Low-Eガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>ピロティを設けることにより空間提供による地域貢献に配慮し、屋上にテラスを設け豊かな中間領域の形成に配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明設備を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋丸の内一丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。